

Essay from Dentist

“DHパートナー”宣言 歯科衛生士へ贈る言葉 ⑮ 地域に目を向けて、 もっと輝こう！

小石 剛（歯科医師）



❁ 地域活動でもっと輝こう！

“地域”とは何でしょうか？ まずは県や市内全域というよりも，“来院される方々が住んでいるところ”と想像してみてください。私たちにとって大切な人々がいるそのなかに、歯科医院は根づいているのです。診療室から一步外に出たところから地域は広がっています。医療者と患者さん（治療する側とされる側）の関係ではなく、緊張した医療空間でもない、お互いに言いたいことが言えて、聞きたいことが聞ける場所。困った顔や泣き声ではなく、笑顔と笑い声が溢れる場所。そして「ありがとう」の言葉をダイレクトに感じるができる場所。そこにはさまざまな新しいことが待っています。サッカーなどでは、選手たちが本拠地とし、



待合室での落語会。笑顔と笑い声に溢れている。予防歯科の講話も聞いていただく

もっとも輝く場所を“ホーム”と呼びます。地域活動はあなたの“ホーム”を診療室の外へと広げていきます。診療室では得られない体験や感動は、日常の診療にもおおいに生き、あなたをもっと輝かせるでしょう。

❁ みんなを笑顔に

“診療室を明るい笑顔と笑い声でいっぱいにしたい”と思ったことはありませんか？ できれば嫌な治療を受けに来るときも、患者さんには笑顔であってほしいと私は思います。それを実現するのが地域活動です。みんなが笑顔で来院するには、齲蝕などで困る前にサポート（予防）しなければなりません。しかし、診療室の中だけの予防歯科活動には限界があります。そこで「転ばぬ先の杖」として、「一步先の予防歯科」を成り立たせるのが地域活動です。みんなの笑顔を保ちつづけるためにも、地域での予防歯科活動は必要不可欠です。

私たちが取り組んでいる地域活動の1つに、母親教室があります。これは保護者の方たちに歯科の知識や情報を伝え、コミュニケーションを深めるよい機会です。また、同時に私たちも大きな学びを得ることができます。たとえば、会場選びや資料作りなどをとおして診療とは違う経験ができます。緊張した空間でないため、お互いの素直な気持ちが伝わり、質疑応答やアンケートによっては自分の指導力も実感できるでしょう。また、母親教室の後には個別相談の時間を設けています。受講した保護者とより深いコミュニケーションをとることで、強力なサポートができ、自分の学びも大きくなります。一対一の会話からは保護者の困りごとや心配ごと、それによる子どもを含めた生活への影響などを聞き取ることができます。そこからいま歯科には何が求められているかを知り、どのように声をかけ、サポートしていけばよいかを

考えることができます。どのような活動をするにしても、一方的な考えや指導では成り立ちません。

医療にとってやさしさは欠かせないものです。やさしさは思いやりであり、思いやりは想像力を膨らませます。その想像力は体験によってさらに豊かになります。病気も子育てもすべて自分自身が体験できるとは限りません。しかし、母親教室では本から得る情報よりもっと深い“生の声”をたくさん聞くことができます。そこから自身のやさしさと想像力を育み、保護者や地域を真にサポートできるようになるでしょう。

自由な発想で

当院では、待合室で定期的に落語会を開催しています。その日は待合室を提灯などで飾り、BGMもお囃子にして盛り上げます。町おこしのプロジェクトとともに開催しているイベントですが、多くの人に歯科医院を身近に感じてもらうことができ、落語目当てでいらっしゃる方にも予防歯科の啓発ができるという利点があります。当日はみんな笑顔で来院し、終始笑い声に溢れる場所となっています。また、地域の祭りではヨーヨー釣りや輪投げ屋などの出店とともに、石膏を使った遊びや歯医者さんの体験教室を開催することで、子どもたちに歯科に親しみをもってもらえるようにしています。

地域活動に決まった形はありません。禁煙の会にタバコを吸う方が来ないように、歯科に興味がない方は歯科単独のイベントに来ないことが多く、本当に来ていただきたい方が来ないということもあります。そのため、興味をひくイベントとともに講習会を開催するなど、さまざまな形や工夫をもって行うことが効果的な啓発につながると思います。来院者、知り合い、検診先の保育所、商店街組合など、つねに身の回りのものごとに興味をもち「心のアンテナ」を立



地域の祭りへの出店。子どもたちにも地域の人にも喜んでもらえるのはとてもうれしいもの

てていると、地域活動を始めるきっかけはたくさんあることに気づくはずです。すでに取り組んでいる歯科医院もたくさんあり、それらの活動から私も学ばせていただいているところです。

地域連携と共生

こうして地域活動をしていると、私たち自身がすでに地域にサポートされていることに気づかされます。祭りのようなイベントは、その土地の文化や市民の交流を支え、新たな住民も増やし、地域を活性化します。地域の活性化なくして、来院者が保たれることも、増えることもありません。私たちはすでに地域の一部であり、つねに周りに支えられ“生かされている”のです。“ともに生かされて生きる（共生）”共同体ともいえます。また、地域で活躍する助産師や栄養士などの専門職と連携することで、多くの方を支援できるでしょう。

地域に目を向けて活動すると、みずからの地域社会での役割やその必要性をさらに感じ取ることができるでしょう。歯科医療人として人に喜ばれ、社会に貢献できている実感から、自分の仕事に誇りをもつことができます。さあ、地域活動をとおしてますます輝きましょう！



小石 剛 / こいしごう

2003年 鶴見大学歯学部卒業
2004年 小石歯科医院開設
2007年 こいし歯科開設
2012年 岡山大学大学院修了

こいし歯科
〒563-0058
大阪府池田市栄本町9-2-A